

キャリアデザインカリキュラムの開発 I

～生活科・総合的な学習の時間・特別活動を中心として～

藤上真弓

Developing a Curriculum for Career Design I
Focusing on Living Environment Studies,
the Period for Integrated Studies, and Special Activities

FUJIKAMI Mayumi

(Received September 29, 2017)

はじめに

「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」において、「キャリア」とは「人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割の関係を見出していく連なりや積み重ね、「キャリア教育」とは「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」、「キャリア発達」とは「社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程」(中央教育審議会、2011)と定義付けされている。これらの定義から、キャリア教育は、他の教育と同様に、子ども一人ひとりの一生を展望した教育を行わなくてはならないことが分かる。

現在、社会からの要請により、キャリア教育の重要性が叫ばれている。山口県においても、キャリア教育は、教育活動の展開にあたっての3つの基軸の1つとなっており、「夢や目標をもち、一人の社会人として自立できるように、自分にふさわしい生き方を実現しようとする意欲や態度、能力の育成」(山口県教育委員会、p.2、2017)

を目指している。そして、めざす「『やまぐちっ子』の『すがた』」の1つとして、「高い志をもち、未来に向かって挑戦し続ける人」(山口県教育委員会、p.3、2017)を挙げている。

しかし、実際には、課題を抱える実践も少なからずある。それらの課題は、大きく3つにまとめられる。

まず、1つめは、「意図せずに前の校種の取組を否定してしまっている」という課題である。この課題について、小学校に入学した子どもが置かれた状況を例に挙げて述べる。

幼稚園・保育園等において「頼りになる年長さん」として自己有用感をもちながら過ごしていたのにもかかわらず、それまでの子どもの学びや育ちを、教師側が把握できていないがために、子どもは、他の学年から世話をされないと学校生活を送ることができない存在として扱われてしまうことが多い。確かに、これまでとは異なる学校という環境・新たな人間関係、ルール等のもとで過ごすことになるため、子どもの安心を生み出すためのサポートは必要である。しかしながら、「世話をしないと学校生活を送ることができない子ども」ではなく、「これまで経験して得た見方・考え方、方法等を生かす・挑戦する子ども」として過ごさせたい。義務教育のスタート時だからこそ、これまでの自分がしてきたこと・得たこととの「つながり」を子ども自身が感じることができるようしていきたい。そうすることで、子どもは安心して、新たな環境の中でも、新たな挑戦にも意欲・自信をもって取り組み、成長していけるのではないだろうか。

現在は、文部科学省から「スタートカリキュラムスタートブック」¹⁾が各小学校に配付され、「小学校に入学した子供が、幼稚園・保育所・認定子ども園などの遊びや生活を通じた学びと育ちを基礎として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出し」、「成長・安心・自立」(文部科学省、国立教育政策研究所教育課程研究センター、p.3、2015)を促すための「スタートカリキュラム」を作成すること求められている。小学校を卒業した6年生が中学校に入学する際にも、同じように、「成長・安心・自立」を促したいものである。

2つめは、「発達段階に応じた学びが保障されず、学びのつながりが生まれにくい」という課題である。この課題については、働く人々とのかかわる単元における学びを例に挙げながら述べる。

小学校第2学年の生活科の「町探検」でも地域の働く人々にインタビューをしたり、その人の魅力に迫ったりする単元を行うことが多いが、小学校の中学年以上の総合的な学習の時間においても、地域の職人や働く人々に弟子入りをする単元やインタビューをして職業観に迫る単元がある。中学校においては、第2学年において、職場体験を実施する学校が多い。学年・校種が違っていても、これらの単元において、同様な活動が設定されていることが多く、働く人々への職業観や勤労観への迫り方が発達段階に応じた深まりや広がりのあるものとして展開できているかどうかという点では、疑問が残る。

3つめは、「子どもが、自分の職業観や勤労観、今後自分の生活や在り方について深くとらえるための学びが保障されていない」という課題である。例えば、「基礎的・汎用的能力を身に付けるための学びが展開できていない」、「人々の生き様にふれたり、自分の夢の耕し方や壁の乗り越え方、現実との折り合いの付け方等を身に付けたりする深い学びが展開できていない」「キャリア選択肢の幅を広げることができていない」等である。

表1と表2の平成28年度の山口県における主な推進指標を見て分かるように、キャリア教育にかかわる体験活動を「行った」「実施した」ということが、キャリア教育の取組の意識を高める第一歩であると考えられていることが伝わってくる。そのかいあって、表2にある、「1/2成人式」や「立志式」²⁾実施の最新値を見ると、計画策定時と比較して増加率が高い。山口県内のほぼ全ての公立小中学校の小学校第4学年と中学校第2学年の子どもたちは、「希望や意欲をもって今後の生活を送っていく動機付けの機会とする教育活動」（山口県教育委員会、p.23、2013）となるこれらの行事を経験していることとなる。

ここで、「動機付けの機会とする教育活動」と定義付けられている点に着目したい。「1/2成人式」と「立志式」は、あくまできっかけであると強調されているということである。しかしながら、実際に行われている活動において、その行事に向かう学びが、行事の準備やそこ

で披露する歌や劇等の練習となってしまう場合も少なくない。また、どちらの行事も「希望や意欲をもって今後の生活を送っていく動機付けの機会」となっていたとしても、小学校第4学年と、義務教育終了に向け、暫定的職業選択を行っていくことを求められていく中学校第2学年では、発達段階が異なるために、自分の未来の思い描き方やかかわっている社会の幅に違いがあるはずである。しかし、どちらも未来への決意表明だけで終わっている場合も少なくない。これは、2つめに挙げた課題にあたる部分でもある。

表1と表2の平成28年度と平成29年度の最新値を比較してみると、小学校と中学校における数値が微妙に下がっている。推進指標の達成度は、県教育委員会からのアンケート調査で把握されている。「式をしたかどうか」については、明確に応えられるはずである。「体験的なキャリア教育」として、「職場体験活動、インターンシップ、大学・企業訪問等」と例示が挙げられているが、それ以外にも多くの体験的な活動は実施されているはずである。「体験的な」の表現が、どこまでの活動を指しているのか、共通理解は図られていないため、「実施した・しない」という判断は回答者、またはその学校に委ねられている。だからこそ、わずかな変動に一喜一憂することなく、「行っている」「実施した」という結果が100%に近い現状に着目し、「内容の充実」という次の段階の取組の現状を把握する時期になっているのではないかと考える。

これらの課題から、子どもの学びや育ちのつながり、発達段階に応じたねらいや資質・能力、学びの深化を促す授業のあり方等について明らかにし、カリキュラム・マネジメントや授業改善を行っていく必要性を感じた。

1. 研究の目的・方法

1-1 研究の目的

子どものキャリア発達をとらえ、子どもが身に付けるべき資質・能力を明らかにし、発達段階に応じた義務教育期間のキャリアデザインカリキュラムを開発する。

表1 山口県におけるキャリア教育の取組の現状

主な推進指標	基準値 (計画策定時)	最新値	H28末 目標値	H29末 目標値
「1/2成人式」や「立志式」を行っている公立学校の割合	小 63.2% 中 14.6% (H24)	小 99.0% 中 95.3% (H26)	増加 させる	増加 させる
体験的なキャリア教育（職場体験活動、インターンシップ、大学、企業訪問等）を実施した公立学校の割合	小 100 % 中 100 % 高 90.7%	小 100 % 中 100 % 高 94.6% (H26)	小 100% 中 100% 高 100%	小 100% 中 100% 高 100%

(山口県教育委員会、p.25、2016)

表2 山口県におけるキャリア教育の取組の現状

主な推進指標	基準値 (計画策定時)	最新値	H29末 目標値
「1/2成人式」や「立志式」を行っている公立学校の割合	小 63.2% 中 14.6% (H24)	小 96.6% 中 98.0% (H27)	増加 させる
体験的なキャリア教育（職場体験活動、インターンシップ、大学、企業訪問等）を実施した公立学校の割合	小 100 % 中 100 % 高 90.7% (H24)	小 99.7% 中 98.7% 高 94.7% (H27)	小 100% 中 100% 高 100%

(山口県教育委員会、p.25、2017)

1-2 研究の方法

表3の流れで、生活科と総合的な学習の時間、特別活動等を中心としたキャリア教育にかかわるカリキュラムをデザインする。

表3 研究の流れ

<方法1>	発達段階を期でとらえる
<方法2>	キャリア教育の柱を決定する
<方法3>	柱ごとに、各発達段階におけるねらいを合い言葉として表現する
<方法4>	柱ごとに、各発達段階におけるキーワードを1つずつ挙げる
<方法5>	各学年のねらいをスローガンとして表現する
<方法6>	柱ごとに、各学年における具体的なねらいを整理する

2. 研究の実際

2-1 発達段階を期でとらえる

様々な発達理論をもとに、小学生・中学生・高等学校期の子どもをとらえると、表4のようになる。

様々なとらえ方があるが、発達段階を期でとらえる際

には、D・E・スーパーの「キャリアにかかわる発達段階」（表5）を参考にし、義務教育段階の9年間を、「第1期：小学校第1学年～第4学年」「第2期：小学校第5学年～中学校第1学年」「第3期：中学校第2学年～第3学年」の3期に分けることとした。

小学校第1学年のカリキュラムは、「スタートカリキュラム」としての役目を果たさねばならないこと、小学校低学年の2年間だけに存在する生活科が「自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成する」ことを目指す教科であることを考えて、第1期をさらに「第1学年～第2学年（低学年）」「第3学年～第4学年（中学年）」の2つに分けることとした。

また、生活科で成長単元を扱うことの多い小学校第2学年、「1/2成人式」を実施することが多い小学校第4学年、小学校卒業を前に職業にかかわる単元を実施したり、小学校における自分の成長を見つめ、中学校生活を展望したりする単元を実施したりする小学校第6学年、「立志式」を行うことが多い中学校第2学年を、キャリア教育重点学年と考えた。

表4 小学校・中学校・高等学校の子どもたちに関わる発達理論

年齢	ピアジェ 認識発達理論	フロイト 精神分析学	エリクソン 自我同一性理論	スーパー 職業的発達理論	コールバーグ 道徳性の発達理論
4歳	前操作期	男根期	幼児後期 「自発性」 対 「罪悪感」	空想期	前慣習的（無道徳） 水準
5歳			児童期 「勤勉性」 対 「劣等感」		
6歳 小1					
7歳 小2	具体的操作期	潜伏期	青年期 「自我同一性の確立」 対 「自我同一性の拡散」	興味期	慣習的道徳水準
8歳 小3					
9歳 小4					
10歳 小5	形式的操作期	性器期	「自我同一性の確立」 対 「自我同一性の拡散」	能力期	慣習以降の 自律的、 原理原則水準
11歳 小6				暫定期	
12歳 中1					移行期
13歳 中2					
14歳 中3					
高1 15歳					
高2 16歳					
高3 17歳					
18歳					

（三村隆男、p.17、2004）を藤上が改変

表5 D・E・スーパーの

「キャリアにかかわる発達段階」

成長段階	誕生～14歳	自己概念は、学校と家庭における主要人物との同一視を通して発達する。 欲求と空想はこの段階の初期において支配的である興味と能力は社会参画と現実吟味の増大にともない、この段階で一層重要になる。 以下、この段階の副次的期間である。
	空想期 (4～10歳)	欲求中心・空想の中で役割遂行が重要な意義をもつ。
	興味期 (11～12歳)	好みが志望と活動の決定要因となる。
	能力期 (12～14歳)	能力に一層重点がおかれる。職務要件(訓練も含む)が考慮される。
探索段階	(15～24歳)	学校、余暇活動、パートタイム労働において、自己吟味、役割施行、職業上の探求が行われる。この段階の副次的期間は以下である。
	暫定期 (15～17歳)	欲求、興味、能力、価値観、雇用機会のすべてが考慮される。暫定的な選択がなされ、それが空想や討論、家庭、仕事の中で試みられる。
	移行期 (18～21歳)	青年が労働市場または専門的訓練に入り、そこで自己概念を充足しようと試みる過程で、現実への配慮が重視される。
	施行期 (22～24歳)	表面上の適切な分野に位置づけられると、その分野での初歩的な職務遂行が与えられる。そしてそれが生涯の職業として試みられる。
確立段階 (25～44歳)	適切な分野が見つけれ、その分野で永続的な地歩を築く努力がなされる。	

(三村隆男、pp.16-17、2004)

2-2 キャリア教育の柱を決定する

キャリア教育の柱を、「社会(地域社会)づくり」と「自分づくり」という2つに設定した。そのようにした理由は、3つある。

1つめは、人は、他者や社会等のかかわりを通して成長していく存在であるからである。

「キャリア発達」について、「社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程」(中央教育審議会、2011)と定義づけられている。その定義からも、自己の生き方(「自分づくり」)を考えていく上で、自分自身を取り巻く人々や社会との関係の広がりや深まりの過程をとらえていく必要性を感じたからである。

2つめは、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が2017年3月に改正³⁾され、学校運営協議会制度を導入した学校(コミュニティ・スクール)の設定が努力義務化された今、また、小学校・中学校においては、特に、学校を中心とした地域社会の中で子どもたちを育てていく視点をもってカリキュラム・デザインしていく必要があると考えたからである。

諸富も、これからの社会は、「従来型の『国家や家族中心の発想』でもなく、『個人単位の発想』でもない。『第三の立場』が必要だ」と主張し、それは、「『緩やかなつながり=ネットワーク』志向の社会」であり、そこで重要になるのは、「『地域における支え合い=ケアリング』ができるかどうか」(諸富、pp.40-41、2011)だと述べている。また、「『いざというとき頼れるものは、目に見える、人と人とのつながり』=『地域』だ、という発想には、説得力がある」(諸富、p.41、2011)とも述べている。

3つめは、キャリア教育は、職場訪問やインタビュー等の体験でとどまらず、その子自身の在り方・生き方に楔を打つものになってほしいからである。

諸富は、「仕事に取り組むとはどういうことなのか、自分が何に向いていて何にワクワクするのかは、実際に体を動かしてやってみないとわかりません。疑似職業体験は子どものキャリア形成にとって、何にも代えがたい大きな経験になるのです。」(諸富、p.32、2007)と、体験活動の重要性について述べている。もちろん、直接体験から得る実感や気付き等は重要であることは言うまでもないが、直接体験から得たものを見つめ、整理し、今後の「自分づくり」に生きる視点や方法としていかなければならない。そうすることで、自分の夢や目指したい姿を思い描くだけでなく、それらを実現する術を子どもたちは得ていき、意志をもって自分や社会の未来を切り拓くことができるようになっていくと考える。

以上のような理由で、「社会(地域社会)づくり」と「自分づくり」という2つの柱を立てて、各学年におけるキャリア発達段階の具体を明らかにしていこうと考えた。

2-3 柱ごとに、各発達段階におけるねらいを
合い言葉として表現する

各発達段階におけるねらいを合い言葉として表現しようと考えた。その理由は、このカリキュラムを活用する教職員が、子どもたちの発達段階とその発達段階に応じたねらい等を合い言葉のように共有できれば、子どもの学びと育ちがつながっていきやすいと考えたからである。また、他学年や他の期のねらいを意識しながら、各学年の授業をデザインすることもできるようになると考えたからである。そして、それだけでなく、何よりも、学びの主人公でなくてはならない子どもたちともねらいを共有しやすくするためである。

表8は、筆者が考えた各期の合い言葉である。表7にも挙げた「小学校キャリア教育の手引き<改訂版>」の

『各学年段階におけるキャリア教育』も参考にして作成した。

諸富は、「あまりに早くから自分のキャリアを意識し、将来設計を明確にしすぎると、観念的になったり強迫的になったりして、心のやわらかさや自由度を失うことがあります。その結果、将来に対して不安や防衛心ばかりが強い、まじめな堅物、若年寄的な人間を育ててしまうことになりかねません。」(諸富、p.28、2007)と、小学校期のキャリア教育のあり方について述べており、「第1期」の「自分づくり」は、まず、自分を耕す期となるようにカリキュラム・デザインした。

また、地域を学びの根源とした「社会づくり」のカリキュラム・デザインについては、「in about with for」をキーワードして、表9のように段階的にとらえた。

表7 「小学校キャリア教育の手引き<改訂版>に掲載された『各学年段階におけるキャリア教育』から
筆者が抜粋し整理したもの

	合い言葉	ねらい	キャリア発達課題
低学年	好きなこといっぱい できることいっぱい 学校って楽しいな	自分の好きなこと、得意なこと、できることを増やし、様々な活動への興味・関心を高めながら、意欲と自信を持って活動できるようにする	①小学校生活に適應する。 ②身の回りの事象への関心を高める。 ③自分の好きなことを見つけて、のびのびと活動する。
中学年	自分と 友だちとみんな いっしょに	友達のよさを認め、協力して活動する中で、自分の持ち味や役割を自覚することができるようにする	①友だちと協力して活動する中でかかわりを深める。 ②自分の持ち味を發揮し、役割を自覚する。
高学年	挑戦する やりぬく 夢・希望を広げる	苦手なことや初めて経験することに失敗を恐れず取り組み、そのことが集団の中で役立つ喜びや自分への自信につながるようにする	①自分の役割や責任を果たし、役立つ喜びを体得する。 ②集団の中で自己を生かす。 ③社会と自己のかかわりから、自らの夢や希望をふくらませる。

(文部科学省、「小学校キャリア教育の手引き<改訂版>」、p.111、p.127、p.147、2011)

表8 各期の合い言葉

	社会づくり	自分づくり
第1期 (小学校1学年～4学年)	大好き○小学校・大好き(地域の名前) ぼくわたしのじまんの○	自分大好き 「好き!」「できる!」がいっぱい
第2期 (小学校5学年～中学校1学年)	ぼく・わたしのふるさとのために 自分にできること	「～な人になりたい!」 夢いっぱい 希望いっぱい
第3期 (中学校2学年～3学年)	社会の一員として自分にできること	「～な人になる!」 志をもち、自分の未来を切り拓く!

表9 地域を学びの根源とした子どもの活動の幅

教科・領域	学年	活動の幅	
生活科	1	地域の 中で学ぶ	in
	2		
総合的な学習の時間	3	地に ついて学ぶ	about
	4	地域の ために学ぶ 身近な人々と ともに 地域の ために学ぶ	for with + for
	5		
	6		

(藤上、p.92、2008)を改変

2-4 柱ごとに、各発達段階における

キーワードを1つずつ挙げる

表10は、筆者が考えた各期におけるキーワードである。キーワード化することで、各期の子どもたちが自分や社会の未来を切り拓こうと動き出すために必要な情意や自分自身への気付き等について、教職員の共通理解を促すことができると考えた。

2-5 各学年のねらいをスローガンとして表現する

表11は、教職員が目指す子どもの姿を共有するだけでなく、子どもたち自身がそれらを把握できるように、上段は子ども側の言葉でスローガンを表し、下段はそのスローガンにした意図を教職員向けに表した。子どもたちと目指す姿を共有することで、その姿の具現化をより一層図ることができると考えた。これは、「小学校キャリア教育の手引き<改訂版>」の「各学年段階のキャリア教育」や諸富（2007）、浅野（2005）、筆者が小学校教員時代に開発した単元のねらい等を参考にした。

浅野は、子ども自身がキャリアデザインしていく必要性について、「いたずらに周囲に流されることなく、自分のキャリアは、自分でデザインすることが必要であり、社会でどのように自分を活かすことが、最も自分らしさ

の実現につながるのか常に考え、アクションを起こすことが求められる。」（浅野、p.214、2005）と述べている。子どもたち自身が、自分自身のキャリアデザインを意識していくためにも、目指す姿の共有は欠かせない。

諸富も、義務教育段階のキャリア教育について、「義務教育段階でのキャリア教育では、直接的にキャリアを意識させるものではなく、むしろ、さまざまな職業をやり遂げていくうえで必要とされる基礎的な能力を育成していくことが重要なのです」（諸富、pp.28-29、2007）と述べている。そこで、特に、「第1期」は直接的なキャリア教育に至るまでの耕しの期間となるようにカリキュラム・デザインした。

2-6 柱ごとに、

各学年における具体的なねらいを整理する

表12は、スローガンの具体を教職員で共有するためのものである。スローガンをそのように表現した具体的な把握せねば、目指すところにたどり着くまでの手立ての模索につながっていかないためである。

これらの具体的なねらいは、各学年で実施する単元におけるねらいにつながっていく。

表10 各期のキーワード

		社会づくり	自分づくり
第1期 (小学校1学年～4学年)	低学年	愛着	自信
	中学年	役割	持ち味
第2期(小学校5学年～中学校1学年)		挑戦	希望
第3期(中学校2学年～3学年)		責任	意志

表11 各学年のスローガン（ねらい）

学年	各学年のスローガン（ねらい）
小学校 第1学年	0からのスタートではないよ！ ぼく・わたし一人でもできるもん！ 学校って楽しいね ★小学校生活に適應し、のびのびと活動する
小学校 第2学年	「好き！」「できる！」を たくさん増やすよ！ ★自分の「好き」を知り、得意なことやできることを増やす
小学校 第3学年	ぼく・わたしのこだわり・好き再発見！ みんな違ってみんないい！ ★自分や友達の「好き」「こだわり」を見つめ、違いを持ち味として受け入れる
小学校 第4学年	過去・現在・未来のぼく・わたしやふるさを見つめるよ！ ★自分の「持ち味・役割」に気付き、未来を思い描く
小学校 第5学年	挑戦！ ぼく・わたしの新たな魅力を開發するよ！ ★「苦手」「初めて」にも挑戦し、新たな自分の魅力を開發する
小学校 第6学年	「～な人になりたい！」ぼく・わたしなりの「生き方モデル」見つけるよ！ ★出会いから生き方を学び、自分なりの「生き方モデル」を見いだす
中学校 第1学年	3年後の自分のありたい姿をイメージし、中学校生活をデザインする ★自分が目指したい将来を暫定的に決定し、中学校生活をデザインする
中学校 第2学年	自分の役割って何だろう？置かれた立場や状況に応じた自分の生かし方を模索する ★自分の「ウリ」を見つめ、志を立てる
中学校 第3学年	「～な人になる！」 未来を切り拓く！ 新たな世界に飛び立つぼくたち・わたしたち ★自分の「ウリ」や興味・関心をもとに、目指す将来を暫定的に決定する

表12 各学年における具体的なねらい

校種	学年	社会づくり	自分づくり
小学校	1	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活に慣れる 学級において割り当てられた役割を果たす 割り当てられた仕事の大切さがわかる 学校の中でお気に入りの物・場所・出来事等ができる 自分たちの登下校の安全を守ってくれている人々の存在に気付く 自分の気持ちや考えが言える 	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園・保育園等で経験した遊びや学びを生かし、安心して学校生活を送る 自分の好きなもの・こと、大切なもの・こと、得意なこと等を見つけて意欲と自信をもつ 頑張ったことや自分のよいところを見つけ、意欲と自信をもつ
	2	<ul style="list-style-type: none"> 身近な地域に気に入ったの人・物・場所・出来事等ができ 家庭や学級において自分の役割を積極的に果たし、役立つ喜びを実感する 友達の気持ちを考えて活動する 自分を支えている存在に気付く 様々な立場の人々が地域を支えていることに気付く 成長を支えてくれた人々の存在に気付き、感謝の気持ちを表す 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の好きな人・もの・出来事等について自覚する 自分でできるようになったことや役割が増えたことが分かる 身近な存在に支えられながら成長してきたことに気付く 成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつ これからの成長への願いをもって意欲的に生活する
	3	<ul style="list-style-type: none"> 友達とのかかわりを深め、互いの持ち味や魅力に気付く 身近な地域の魅力を再発見する 自分や友達の持ち味やこだわり等を生かして、地域の魅力を発信する 互いの役割や役割分担する必要性が分かる 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の持ち味に気付く 自分のこだわりや疑問の傾向に気付く 自分の持ち味・こだわりを生かす 自分のやりたいことやよいと思うことを考え、進んで取り組む
	4	<ul style="list-style-type: none"> 友達とのかかわりを深め、互いの持ち味や魅力に気付く 好きなことと職業・生活との関係について見つめる 互いの役割や役割分担する必要性が分かる 地域の人々とともに地域の在り方について考える 地域には多様な立場や年齢、考え方をもつ人々が存在することに気付く 成長を支えてくれた人々の存在に気付き、感謝の気持ちを表す 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の持ち味や役割に気付く 頑張ってきたことや好きなこと等について見つめる 自分を支えている存在（人・物・こと等）に気付く 成長を支えてくれた人々の存在に気付き感謝の気持ちをもつ 自分のこれまでと今を見つめ、これからの成長への願いをもって意欲的に生活する
	5	<ul style="list-style-type: none"> 集団の中での自己の生かし方について考える 自分の役割や責任を果たし、役立つ喜びを実感する 挑戦したい役割を選択する 社会の中には様々な役割があることやその大切さが分かる 働くことの大切さや苦勞が分かる 	<ul style="list-style-type: none"> 自分を支えている存在に改めて気付く 自分も誰かを支える存在になりうることに気付く 新たに挑戦したいことを見つける 新たな自分の持ち味や魅力に気付く
	6	<ul style="list-style-type: none"> 働く目的意識について考える 働く人々の職業観に迫る 働く人々に共通する職業観を導き出す 集団の中やプロジェクトにおける自分や他者の生かし方について考える 挑戦したい役割を選択する 自分の役割の必要性をとらえ、責任をもってそれを果たそうとする 小学校区の最高学年としての役割をとらえ、責任をもってそれを果たそうとする 働く人々を支える存在とは何か考える 	<ul style="list-style-type: none"> 憧れる生き方や自分らしい生き方について考える 目標を達成する道筋は多様にあることをとらえる 困難が生じた時の自分なりの対処の仕方を見いだす 自分の好きなことや得意なことを踏まえて、将来の夢を思い描く 成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつ これからの中学校生活や成長への願いをもって意欲的に生活する
中学校	1	<ul style="list-style-type: none"> 中学校生活に慣れる 産業・経済の変化に伴う職業や仕事の変化についてとらえる 他者の良さや感情を理解し、尊重しながら活動する 	<ul style="list-style-type: none"> 新しい環境や人間関係に適応し、安心して中学校生活を送る 将来の職業生活と今の学習、生活との関連について考える 自分が目指したい将来を暫定的に決定する 進路希望に基づいて、目標を立て、進路計画の立案をする
	2	<ul style="list-style-type: none"> 持ち味や能力と職業の関係について見つめる 職業選択の決め手について考える リーダーとフォロアーの立場を理解し、チームでの支え合い方について考える 様々な職業の社会的役割や意義について考える 上級学校の学科の種類や特徴、及び職業に求められる資格や学習歴の概略が分かる 	<ul style="list-style-type: none"> 自分にふさわしい職業や仕事への関心をもつ 様々な職業の社会的役割や意義に対するとらえをもとに、自己の生き方について考える 職業体験をもとに、自分の勤労観・職業観について見つめ直す 職場体験をもとに、進路計画を見つめ直す 自分の良さや個性が分かる
	3	<ul style="list-style-type: none"> 社会の一員としての義務と責任について理解する 判断・決定の過程や結果には責任が伴うことを理解する 中学校区の最高学年としての役割をとらえ、責任をもってそれを果たそうとする 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の個性や興味・関心に基づいて、進路や日々の様々な取組に対してよりよい選択をしようとする 将来設計を達成するための困難をとらえ、それを克服する術を自分なりに見いだす 進路を暫定的に選択する

2-7 生活科・総合的な学習の時間・特別活動を
中心としたキャリアデザインカリキュラム

生活科・総合的な学習の時間・特別活動を中心としたキャリアデザインカリキュラム（試案）

社会づくり	めあて	自分づくり
<ul style="list-style-type: none"> ★学校生活に慣れる ★学級において割り当てられた役割を果たす ★割り当てられた仕事の大切さがわかる ★学校の中でお気に入りの物・場所・出来事等ができる ★自分たちの登下校の安全を守ってくれている人々の存在に気付く ★自分の気持ちや考えが言える 	<p style="text-align: center;">スタートカリキュラム</p> <p style="text-align: center;">小学校第1学年</p> <p style="text-align: center;">0からのスタートではないよ！ ほく・わたし一人できるもん！学校って楽しいね！ ★小学校生活に適應し、のびのびと活動する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ★幼稚園・保育園等で経験した遊びや学びを生かし、安心して学校生活を送る ★自分の好きなもの・こと、大切なもの・こと、得意なこと等を見つけて意欲と自信をもつ ★頑張ったことや自分のよいところを見つけ、意欲と自信をもつ
<ul style="list-style-type: none"> ★身近な地域にお気に入りの人・物・場所・出来事等ができる ★家庭や学級において自分の役割を積極的に果たし、役立ち喜びを実感する ★友達の気持ちを考え活動する ★自分を支えている存在に気付く ★様々な立場の人々が地域を支えていることに気付く ★成長を支えてくれた人々の存在に気付く、感謝の気持ちを表す 	<p style="text-align: center;">小学校第2学年</p> <p style="text-align: center;">「好き！」「できる！」をたくさん増やすよ！</p> <p style="text-align: center;">★自分の「好き」を知り、得意なことやできることを増やす</p>	<p>自分大好き 「好き！」「できる！」「がんばる！」がいっぱい</p> <ul style="list-style-type: none"> ★自分の好きな人・もの・出来事等について自覚する ★自分でできるようになったことや役割が増えたことが分かる ★身近な存在に支えられながら成長してきたことに気付く ★成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつ ★これからの成長への願いをもって意欲的に生活する
<ul style="list-style-type: none"> ★友達とのかかわりを深め、互いの持ち味や魅力に気付く ★身近な地域の魅力を再発見する ★自分のやりたいことやよいと思うことを考え、進んで取り組む ★自分や友達の持ち味やこだわり等を生かして、地域の魅力を発信する ★互いの役割や役割分担する必要性が分かる 	<p style="text-align: center;">小学校第3学年</p> <p style="text-align: center;">ほく・わたしのこだわり・好き再発見！ みんな違ってみんないい！ ★自分や友達の「好き」「こだわり」を見つめ、違いを持ち味として受け入れる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ★自分の持ち味に気付く ★自分のこだわりや疑問の傾向に気付く ★自分の持ち味・こだわりを生かす ★自分のやりたいことやよいと思うことを考える
<ul style="list-style-type: none"> ★友達とのかかわりを深め、互いの持ち味や魅力に気付く ★好きなことと職業・生活との関係について見つめる ★互いの役割や役割分担する必要性が分かる ★地域の人々とともに地域の在り方について考える ★地域には多様な立場や年齢、考え方ももつ人々が存在することに気付く ★成長を支えてくれた人々の存在に気付く、感謝の気持ちを表す 	<p style="text-align: center;">小学校第4学年</p> <p style="text-align: center;">過去・現在・未来のほく・わたしやふるさとを見つめるよ！</p> <p style="text-align: center;">★自分の「持ち味・役割」に気付く、未来を思い描く</p>	<ul style="list-style-type: none"> ★自分の持ち味や役割に気付く ★頑張ってきたことや好きなこと等について見つめる ★自分を支えている存在（人・物・こと等）に気付く ★成長を支えてくれた人々の存在に気付く感謝の気持ちをもつ ★自分のこれまでと今を見つめ、これからの成長への願いをもって意欲的に生活する
<ul style="list-style-type: none"> ★集団の中での自己の生かし方について考える ★自分の役割や責任を果たし、役立ち喜びを実感する ★挑戦したい役割を選択する ★社会の中には様々な役割があることやその大切さが分かる ★働くことの大切さや苦労が分かる 	<p style="text-align: center;">小学校第5学年</p> <p style="text-align: center;">挑戦！ ほく・わたしの新たな魅力を開発するよ！ ★「苦手」「初めて」にも挑戦し、新たな自分の魅力を開発する</p>	<p>「～な人になりたい！」 夢いっぱい！ 希望いっぱい</p> <ul style="list-style-type: none"> ★自分を支えている存在に改めて気付く ★自分も誰かを支える存在になりうること ★新たに挑戦したいことを見つける ★新たな自分の持ち味や魅力に気付く
<ul style="list-style-type: none"> ★働く目的意識について考える ★働く人々の職業観に迫る ★働く人々に共通する職業観を導き出す ★集団の中やプロジェクトにおける自分や他者の生かし方について考える ★挑戦したい役割を選択する ★自分の役割の必要性をとなえ、責任をもってそれを果たそうとする ★小学校区の最高学年としての役割をとなえ、責任をもってそれを果たそうとする ★働く人々を支える存在とは何か考える 	<p style="text-align: center;">小学校第6学年</p> <p style="text-align: center;">「～な人になりたい！」 ほく・わたしなりの「生き方モデル」見つけるよ！</p> <p style="text-align: center;">★出会いから生き方を学び、自分なりの「生き方モデル」を見いだす</p>	<ul style="list-style-type: none"> ★憧れる生き方や自分らしい生き方について考える ★目標を達成する道筋は多様にあることをとらえる ★困難が生じた時の自分なりの対処の仕方を見いだす ★自分の好きなことや得意なことを踏まえて、将来の夢を思い描く ★成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつ ★これからの中学校生活や成長への願いをもって意欲的に生活する
<ul style="list-style-type: none"> ★中学校生活に慣れる ★産業・経済の変化に伴う職業や仕事の変化についてとらえる ★他者の良さや感情を理解し、尊重しながら活動する 	<p style="text-align: center;">中学校第1学年</p> <p style="text-align: center;">3年後の自分のありたい姿をイメージし、 中学校生活をデザインする</p> <p style="text-align: center;">★自分が目指したい将来を暫定的に決定し、 中学校生活をデザインする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ★新しい環境や人間関係に適應し、安心して中学校生活を送る ★将来の職業生活と今の学習、生活との関連について考える ★自分が目指したい将来を暫定的に決定する ★進路希望に基づいて、目標を立て、進路計画の立案をする
<ul style="list-style-type: none"> ★持ち味や能力と職業の関係について見つめる ★職業選択の決め手について考える ★リーダーとフォロワーの立場を理解し、チームでの支え合い方について考える ★様々な職業の社会的役割や意義について考える ★上級学校の学科の種類や特徴、及び職業に求められる資格や学習歴の概略が分かる 	<p style="text-align: center;">中学校第2学年</p> <p style="text-align: center;">自分の役割って何だろう？ 置かれた立場や状況に応じた自分の生かし方を模索する</p> <p style="text-align: center;">★自分の「ウリ」を見つめ、志を立てる</p>	<p>「～な人になる！」 志をもつて、自分の未来を切り拓く！</p> <ul style="list-style-type: none"> ★自分にふさわしい職業や仕事への関心をもつ ★様々な職業の社会的役割や意義に対処する ★職業体験をもとに、自己の生き方について考える ★職業体験をもとに、自分の勤労観・職業観について見つめ直す ★職業体験をもとに、進路計画を見つめ直す ★自分の良さや個性が分かる
<ul style="list-style-type: none"> ★社会の一員としての義務と責任について理解する ★判断・決定の過程や結果には責任が伴うことを理解する ★中学校区の最高学年としての役割をとなえ、責任をもってそれを果たそうとする 	<p style="text-align: center;">中学校第3学年</p> <p style="text-align: center;">「～な人になる！」 未来を切り拓く！ 新たな世界に飛び立つほくたち・わたしたち</p> <p style="text-align: center;">★自分の「ウリ」や興味・関心をもとに、 目指す将来を暫定的に決定する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ★自己の個性や興味・関心に基づいて、進路や日々の様々な取組に対してよりよい選択をしようとする ★将来設計を達成するための困難をとなえ、それを克服する術を自分なりに見いだす ★進路を暫定的に選択する

図1 キャリアデザインカリキュラム試案

3. 成果と今後の課題

提案したキャリアデザインカリキュラムは、キャリア教育を推進していくための各学年や各期の目指す子ども像を共有するためのものである。そのため、たどり着いてほしい「観」やもってほしい気付きやものの見方・考え方、姿勢や態度等として、資質・能力を表現している。

今後は、授業や単元における手立ての具体を教職員で共有していくために、学びを展開していく過程で子どもたちが活用していく学び方レベルの資質・能力を明記したカリキュラム案の作成も求められる。それだけでなく、「社会に開かれた教育課程」（文部科学省、p.2、2017）になっていくためには、子どもたちに求められる資質・能力を社会と共有していくことが求められている。

また、第3期でねらう暫定的職業選択を自分の意志で行うことができるようになるためには、それまでの第1期や第2期における具体的な手立てについても明らかにしていく必要性を感じている。

さらに、人間ならではの資質・能力の中でも、「困難な状況から立ち直る心の力」（深谷、p.3、2015）である「レジリエンス」や、「スキルの背景にあるスキル」「仕事で想定外のことがあった時に、どう平常心を取り戻すか、批判を受けた時に、どうやってできることをしていくかといったスキル以前のスキル、スキルの基盤になっているスキル」（諸富、pp.91-92、2013）である「グランド・スキル」等、感情の負の部分とどのように向き合うのか、困難に出会った時どのように前に踏み出す力を得ていくのか等という資質・能力の積み重ね方についても明らかにしていく必要があると感じている。

註

- 1) 「スタートカリキュラムスタートブック」とは、国立教育政策研究所教育課程センターが、生活科を中心としたスタートカリキュラムの取組についてまとめた教員向けのパンフレットである。2017年1月30日に、「全国の小学校や幼稚園・保育所等、教育委員会等に配付し、スタートカリキュラムの推進・充実を図ります。また、研究書のウェブサイトの中で広く一般にも公開する予定です。」（国立教育政策研究所、2013）と報道発表された。
- 2) 「山口県教育振興基本計画」では、「1/2成人式」や「立志式」は、「将来の夢や決意を保護者や地域住民の前で発表することなどにより、希望や意欲をもって今後の生活を送っていく動機付けの機会とする教育活動」と説明されている。（山口県教育委員会、p.22、2013）
- 3) 「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が2017年3月に改正され、学校運営協議会の設置が努力義務化（第47条の6）された。

付記

本稿は、平成29年度科学研究費補助金（基盤研究（B））（研究代表者：吉川幸男 課題番号17H02703）による研究成果の一部である。

参考文献・引用文献

- 浅野良一（2005）「企業が求める「キャリア開発力」と教師への期待」、『学力を育てる“教師力”の向上』、教育開発研究所、p.214
- 関西大学初等部（2015）、「関大初等部式思考力育成法ガイドブック」、さくら社
- 国立教育政策研究所（2015）「報道発表『スタートカリキュラムスタートブック』（教員向けパンフレット）について」、http://www.nier.go.jp/03_laboratory/pdf/251501301500_1.pdf、2017.09.08アクセス
- 中央教育審議会（2011）「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」
- 都留覚、藤上真弓（2012）「プロ教師に学ぶ 小学校 総合的な学習の時間の基礎技術Q&A」、東洋館出版社、p.28
- 奈須正裕・諸富祥彦（2011）「答えなき時代を生き抜く子どもの育成」、図書文化、p.40、p.41、p.122、p.113
- 深谷昌志（2015）「『元気・しなやかな心』を育てるレジエンス教材集1」、明治図書、p.3
- 藤上真弓（2008）「『自分なりの応え』をもとに語り合う活動を通して、言語活動の充実を図る」、『言語活動の充実を図る「視点と方法」のある授業』、山口大学教育学部附属光小学校、明治図書、p.92
- 藤上真弓（2014）「総合的な学習の時間におけるキャリア教育に必要な学びの研究～『生きる力』を身に付けていくための指導の工夫～」、山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要第38号
- 藤上真弓（2015）「イベントだけで終わらせない『1/2成人式』の在り方について」、山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要第40号
- 三村隆男（2004）「図解 はじめる小学校キャリア教育」、実業之日本社、pp.16-17
- 諸富祥彦（2007）「『7つの力』を育てるキャリア教育」、図書文化、p.28、p.29、p.32
- 諸富祥彦（2013）「私たちは何のために働くのか」、日本能率協会マネジメントセンター
- 文部科学省（2011）「小学校キャリア教育の手引き<改訂版>」、教育出版、p.111、p.127、p.147
- 文部科学省（2011）「中学校キャリア教育の手引き」、教育出版
- 文部科学省、国立教育政策研究所教育課程研究センター（2015）「スタートカリキュラムスタートブック」、p.3

文部科学省（2017）、「小学校学習指導要領解説生活編」、
p.2

山口県教育委員会（2013）「山口県教育振興基本計画」、p.22

山口県教育委員会（2016）「平成28年度山口県教育推進の手
引き」、p.25

山口県教育委員会（2017）「平成29年度山口県教育推進の手
引き」、p.2、p.3、p.25